ご注意：

本書は取り扱い説明書から注意文など、製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したものです。操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった場合にお使い頂く事を念頭に編集しており、正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

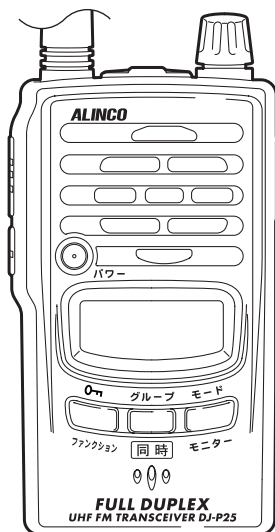
尚、正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウエブサイトをご参照ください。

http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html

ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
（総務省技術基準適合品）

DJ-P25

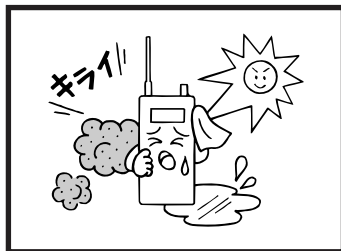
取扱説明書

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。本製品の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。また、この取扱説明書は大切に保管してください。ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。

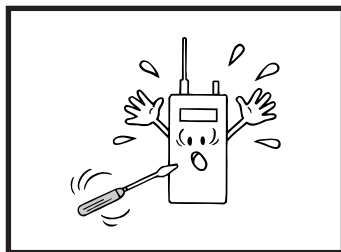
アルインコ株式会社

目 次

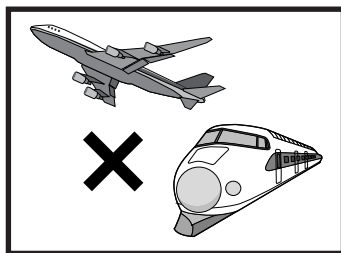
◆◆◆ 使用前のご注意 ◆◆◆

■ ご使用環境

高温、多湿、直射日光の当たるところ、ほこりの多い場所は避けてお使いください。

■ 分解しないで

特定小電力トランシーバーの改造、変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けることは絶対にしないでください。

■ ご使用禁止場所

本機は総務省技術基準適合品ですが、使用場所によっては思わぬ電波障害を引き起こすことがあります。次のような場所では使用しないでください。
（航空機内、空港敷地内、新幹線車両内など）

日本国内でのみ使用してください。

■通信距離

通信のできる距離は周囲の状況によって大きく異なります。
（同時通話では交互通話に比べ、約2割ほど短くなります。）

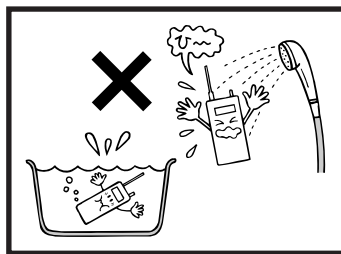
大体の目安
（交互通話10mW時）

海　上	：3km
ゲレンデ	：2km （見通しの良い所）
郊　外	：1〜2km
市街地	：100〜200m

■障害物

本機に採用されている電波は直進性が高いため、間にビルや橋脚、または山や丘陵等の障害物があると通信できる距離が短くなります。

■水につけないで

防水設計ではありますが、図のようなご使用は避けてください。なお、水、雪等が付いたときは手早くふき取ってください。
外部接続端子（イヤホン、マイク、外部電源）を使用している間、また電池カバーやゴムキャップを開けたままにしておくと防水にはなりません。ご注意ください。

1 お使いになる前に

本機をお使いになる前にお読みください。

1

・・・・・・・・・付属品と取り付け方・・・・・・・・・

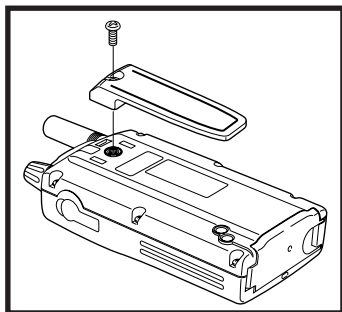
開梱しましたら、付属品を確認してください。

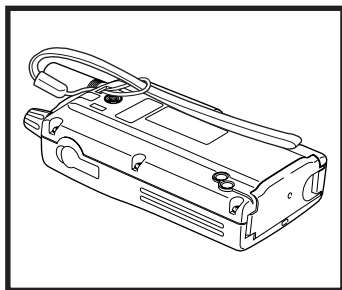
□ ベルトクリップ（ビス1本）
□ ハンドストラップ
□ 取扱説明書（本書）
□ 保証書

保証書に購入の日付が記載されていないときは、レシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類が無いと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。

■ベルトクリップの取り付け

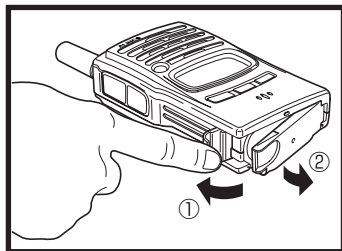
ベルトクリップを付属のビスで本機の背面に取り付けます。
確実に取り付けたことを確認してください。

ベルトクリップは消耗品で、スペアを部品として販売しています。本体をお買い求めの販売店にご相談ください。

■ストラップの取り付け

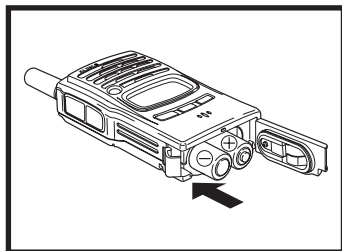
本機背面上部にあるストラップ用の通し穴に右の図のように取り付けます。

・・・・・・・・・・・ 乾電池の入れ方 ・・・・・・・・・・・

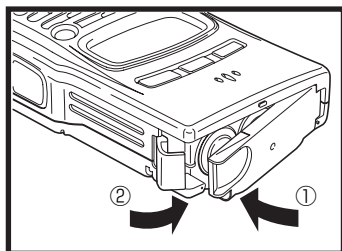
乾電池を次のように装着します。乾電池の代わりに、オプションの充電池、またはバッテリーパックを装着することもできます。

❶ カバーを開ける

①ロックを外します。
②カバーを開けます。

❷ 電池を入れる

市販の単三形乾電池2本を、ケース内側の「+」、「−」の表示にしたがってセットします。

・+/−の向きが違わないように注意してください。
・電池は同じ種類の新しいものを使用してください。アルカリやオキシライドなど、高性能の乾電池の使用をおすすめします。
・市販の単三形充電池は使用しないでください。
・長期間使用しない場合は電池を取り外してください。
・電池の交換は、外部電源を外し、本機の電源をOFFにしてから行ってください。

❸ カバーを閉める

①カバーを閉めます。
②カバーを押さえながら、ロックをかけます。きちんと閉まっていることを確認してください。

●オプション

オプションの充電池、バッテリーパック、および関連するアクセサリーは次のとおりです。P.62の「オプション一覧」も参照してください。

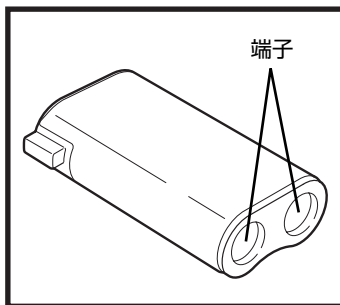
ニッケル水素充電池	：EBP-57N（1.2V-1800mAh）
リチウムイオンバッテリーパック	：EBP-60（3.7V-1200mAh）
ACアダプター	：EDC-122
充電スタンド	：EDC-131
充電スタンド/ACアダプターセット	：EDC-131A

注意 オプションの充電池、バッテリーパック使用上の注意

・オプションの充電池、バッテリーパックは出荷時には充電されておりません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
・充電は0℃～40℃の温度範囲内でおこなってください。
・バッテリーパックの改造、分解や火中、水中への投入は危険ですからしないでください。
・バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器が損傷したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
・必要以上の長時間の充電（過充電）は避けてください。バッテリーパックの性能を低下させる恐れがあります。
・バッテリーパックの保存は、-20℃ ～ +45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
・バッテリーパックは、通常の使用で約500回の充電が可能ですが、所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
・ご使用済みのバッテリーパックは、環境保護のため、燃えないゴミといっしょに捨てずに、電池回収協力店へご持参ください。

■バッテリーパックのショート防止のご注意

バッテリーパックを持ち運ぶときには、端子をショートさせないように注意してください。（P.15）
大電流が流れて火傷や火事を起こす危険があります。

1

■バッテリーパックの保管について

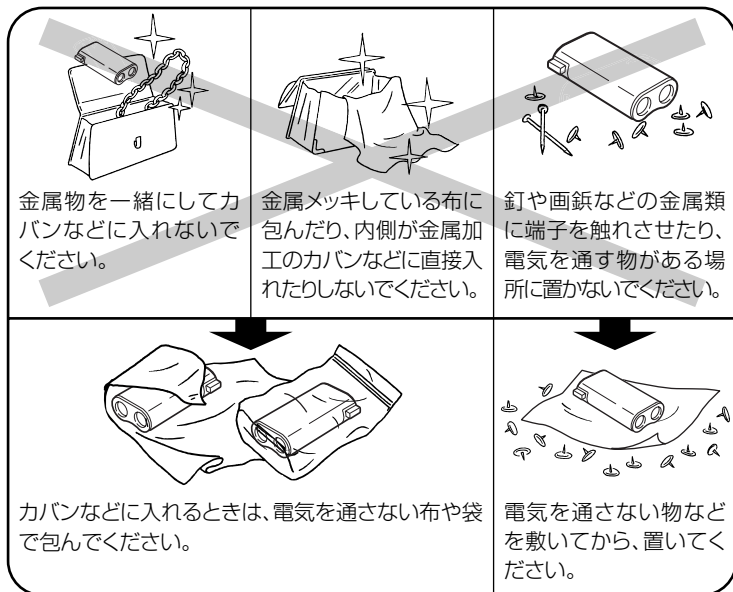
バッテリーパックを保管するときは、以下のことに注意してください。

金属物を一緒にしてカバンなどに入れないでください。

金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。

釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置かないでください。

カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。

電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。

■オプションの充電池、およびバッテリーパックの充電方法

本機には、ニッケル水素充電池用とリチウムイオンバッテリーパック用の2つの充電回路が内蔵されています。

ニッケル水素充電池（EBP-57N）：

本機にはニッケル水素充電池用トリクル充電回路が内蔵されていますが、微小電流による充電回路であるため満充電には長時間を要します。あくまでも補充電程度とお考えください。充電時間は約15時間です。

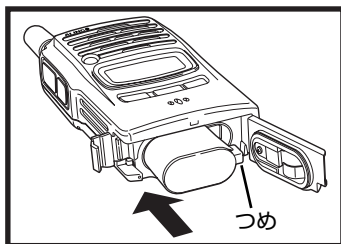
リチウムイオンバッテリーパック（EBP-60）：

本機には、リチウムイオンバッテリー用の急速充電回路が内蔵されています。本機電源のON/OFFに関係なく充電が開始され、満充電になると停止します。充電時間は約3時間です。

単三形乾電池装着時には絶対に充電しないでください。液漏れや発熱、破裂を起こし、事故や故障の原因となります。

1

❶ 本機にニッケル水素充電池または、リチウムイオンバッテリーパックを装着する

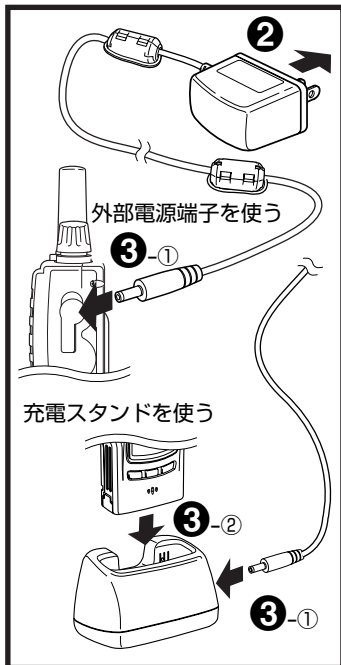
装着方法はP.13を参照してください。バッテリーパックは、つめの位置を確認して、端子が奥になるように挿入してください。

❷ ACアダプターを家庭用電源AC100Vコンセントへ接続する

❸ ACアダプターのプラグを本機の外部電源端子または、充電スタンドに接続する

●外部電源端子を使う

①本機の外部電源端子にACアダプターのプラグを接続します。
→リチウムイオンバッテリーパック装着時は、自動的に充電が開始されます。

●充電スタンドを使う

①充電スタンドにACアダプターのプラグを接続します。
②本機を充電スタンドに装着します。
→リチウムイオンバッテリーパック装着時は、自動的に充電が開始されます。

❹ ニッケル水素充電池を充電する場合のみ、Ni-MH電池充電機能（P.57）の設定に従い、充電機能をONにする

メモ　電源OFFの状態で充電すると「CHArGE」と表示され、▭が点滅します。

・・・・・・・ 各部の名前とはたらき ・・・・・・・

本機の各部の名前とそのはたらきを説明します。

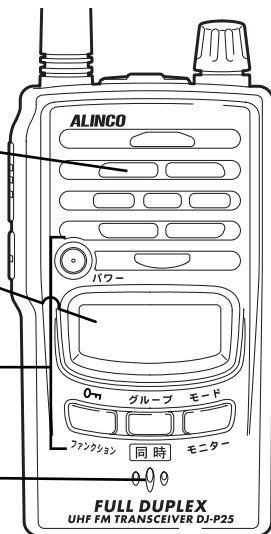
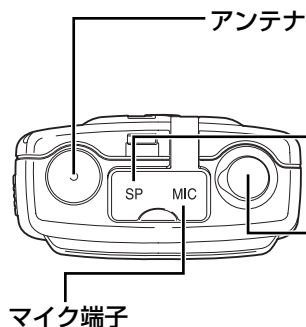
■前面部

スピーカー
薄型スピーカーが内蔵されています。

ディスプレイ
チャンネルや音量、各種設定内容を表示します。（P.20）

キーパッド
電源のON/OFFやモードの切り替えなど、各種設定に使用します。

マイク
マイクと口元は約5センチ離してください。

■上面部

アンテナ

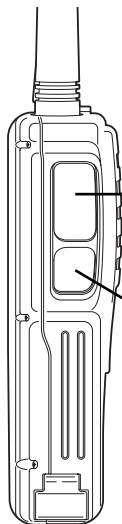
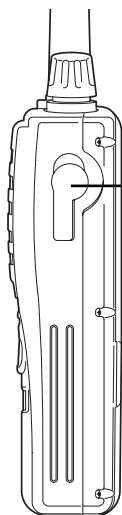
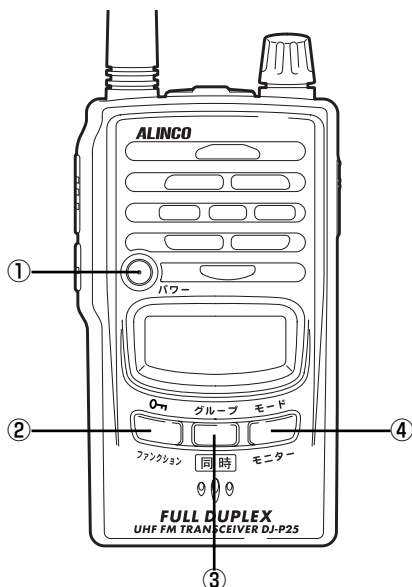
> **注意** アンテナは外れないようになっています。アンテナを回したり、引き抜いたりしないでください。

イヤホン端子
イヤホンや外部スピーカーを接続する端子です。

ダイヤル、［チャンネル（音量、グループ、セット）］キー
ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。ダイヤルを押すと音量、グループ番号の設定、F点灯状態ではセットモードの項目選択ができます。

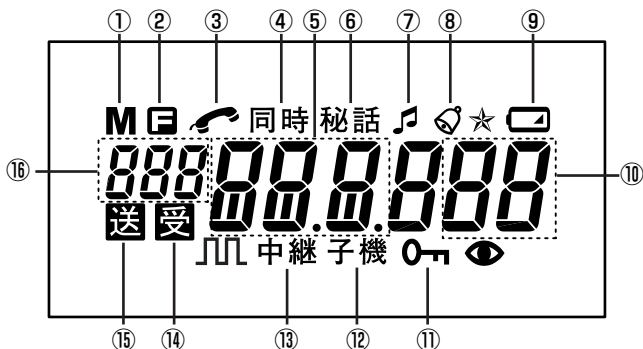
マイク端子
外部マイクを接続する端子です。

1

■側面部

[PTT] キー
押すと送信します。離すと受信待ち受け状態に戻ります。
各種設定を完了する際にも使用します。
[フック（A/B）] キー
・同時通話（電話タイプ）で応答する際に押します。
・デュアルオペレーションモード（P.36）でサブ側を送信する際に押します。
・F点灯状態では周波数帯（A/B）が切り替わります。(P.35)
DC-IN
外部電源接続端子です。
オプションのACアダプター（EDC-122）やシガーライターケーブル（EDH-33）を接続します。
オプションのリチウムイオンバッテリーパックやニッケル水素充電池を装着し充電できます。
注意
外部電源のプラグの抜き差しは、本機の電源をOFFにしてから行ってください。

■キー配置

	キー名称	機　能
①	[パワー]キー	約1秒間押して電源をON/OFFします。
②	[ファンクション(O┳)]キー	各種設定の開始に使用します。 約2秒間押し続けるとキーロックができます。
③	[同時(グループ)]キー、 [メモリー]キー	同時通話/交互通話の切り替えに使用します。 F点灯状態(＊1)では、グループトーク機能(P.41)に使用します。 メモリーモードの呼び出し、書き込み(P.39)にも使用します。
④	[モニター(モード)]キー、 [スキャン]キー	相手の音声が途切れるときに使用します。 F点灯状態ではモードの切り替え(P.27)に使用します。 約2秒間押すとスキャンを開始します。

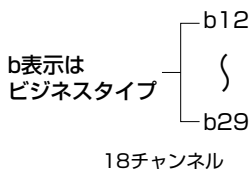
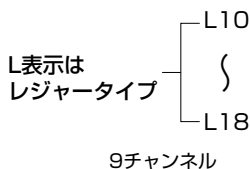
＊1：F点灯状態とは、[ファンクション] キーを押してディスプレイにFを点灯させた状態です。

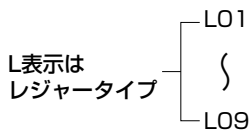
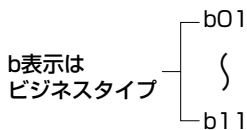
1

■ディスプレイ

説　明	
①	メモリーモード時に点灯します。(P.39)
②	[ファンクション] キーを押すと点灯します。
③	同時通話モード(電話タイプ)時に点灯します。(P.31)
④	同時通話モード時に点灯します。(P.29)
⑤	チャンネル番号を表示します。(P.21)
⑥	秘話機能設定時に点灯します。(P.49)
⑦	コンパンダー機能設定時に点灯します。(P.48)
⑧	ベル機能設定時に点灯します。(P.54)
⑨	電池が消耗すると点灯します。(P.44)
⑩	グループ番号を表示します。(P.41)
⑪	キーロック中に点灯します。(P.43)
⑫	複信連結中継通信モード時に点灯します。(P.34)
⑬	複信連結中継通信モード時に点灯します。(P.34)
⑭	受信中に点灯します。
⑮	送信中に点灯します。
⑯	モード番号、周波数帯、メモリー番号を表示します。

■チャンネル表示について

●同時通話時

レジャー、ビジネス両方の27チャンネルを搭載しています。

●交互通話時

レジャー、ビジネス両方の20チャンネルを搭載しています。

L表示のチャンネルでは、従来のレジャータイプ（9チャンネル機）と通信できます。

b表示のチャンネルでは、従来のビジネスタイプ（11チャンネル機）と通信できます。

基本操作

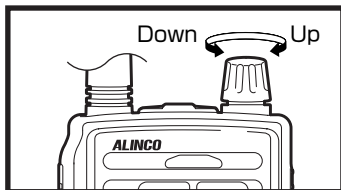
本機を使用する上で基本となる操作を説明します。

■電源を入れる

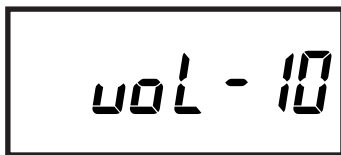
［パワー］キーを約1秒間押します。
電源を切るときも同じ操作をします。

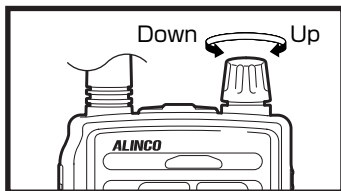
1

■チャンネルを設定する

ダイヤルを回して相手機と同じチャンネルに合わせます。L（レジャー）、b（ビジネス）の表示に注意して合わせてください。

■音量を調整する

❶ ダイヤルを押す

→ディスプレイに音量「voL-10」が表示されます。初期状態では「10」に設定されています。

❷ ダイヤルを回して音量を調整する

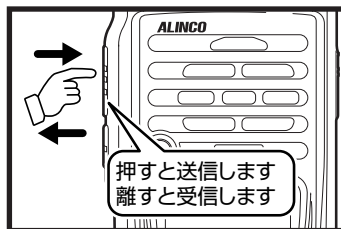
→音量の表示中にダイヤルを回すと音量が増減できます。音量調整は0〜15までの16段階です。

交互通話、あるいは同時通話でヘッドセットなどを使用する場合、音量調整は0〜30までの31段階になります。

❸ 希望の音量を選択したら［PTT］キーを押し設定を完了する

各キーの無操作状態が約5秒続いても自動的に設定を完了します。
→通常の受信待ち受け状態に戻ります。

セットモードのCH/VOLリバース機能（P.50）で、チャンネル設定と音量調整の手順を逆にすることができます。

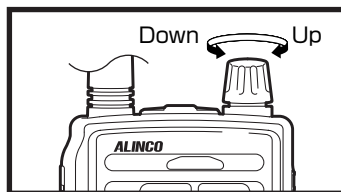
■送信する

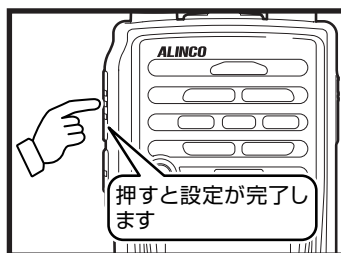
［PTT］キーを押すと送信し、離すと受信待ち受け状態に戻ります。
［PTT］キーは、各種設定を完了する際にも使用します。

■グループ番号を合わせる

同時通話モードでは自動的にグループトーク機能が設定されます。
相手機と同じグループ番号に合わせてください。

❶ ダイヤルを2回押す

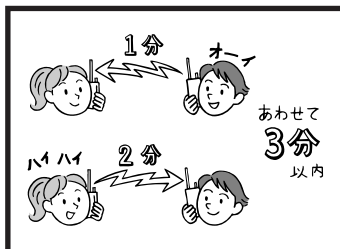
→グループ番号が点滅して、グループ番号を変更することができます。

❷ ダイヤルを回しグループ番号を選択する

❸ ［PTT］キーを押し設定を完了する

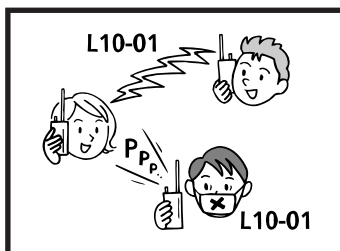
→グループ番号が点滅から点灯に変わります。

・・・ 特定小電力の通信制限について ・・・

特定小電力トランシーバーの通信に関する制限事項を説明します。

■3分制限（3分以上は連続で通信できません）

送信、受信合わせて3分以内です。
10秒前に警告音が鳴ります。
通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止します。

・3分の通信時間制限により、自動的に通信が止まった後は、約2秒たたないと次の送信はできません。
・同時通話用のビジネスチャンネルで送信出力を「Lo」にした場合、3分制限は解除され連続送信が可能になります。

■キャリアセンス（受信中は送信できません）

一定の強さ以上の信号を受信しているときは［PTT］キーを押しても送信できません。
受信中に［PTT］キーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことを知らせます。

ビープ音量を0に設定しているとき、アラーム音は鳴りません。（P.53）

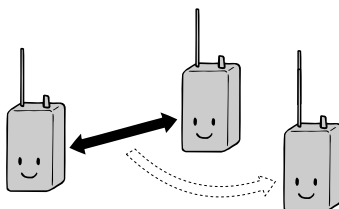
4種類の通信モード

DJ-P25で使用できる4種類の通信モードの概要と操作方法を紹介します。

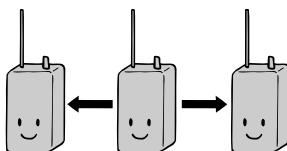
・・・・・・・・・・・ 各モードの概要 ・・・・・・・・・・・

ここでは4種類の通信モードの概要を説明します。

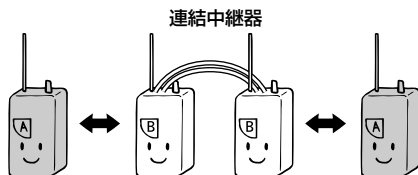
2

●同時通話（複信）モード（P.29）

工場出荷状態で電源を入れると、このモードになります。電話感覚で話ができる同時通話モードです。基本的には1対1の通信ですが、ループ機能設定時には第三者も会話を聞くことができます。

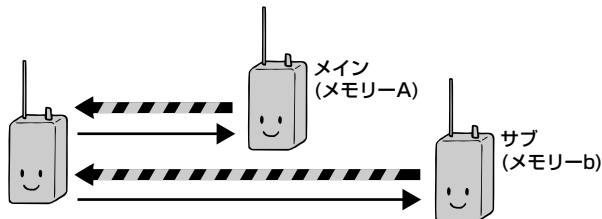
使用チャンネル：L10〜18、b12〜29

●交互通話（単信）モード（P.32）

最も基本的な交互通話（単信）モードです。送信時に［PTT］キーを押して通話します。周波数構成が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも通信できます。

使用チャンネル：L01〜09、b01〜11

●複信連結中継通信モード（P.34）

直接の通信ではつながらない相手と、連結中継器を介して同時通話モードのように通信するモードです。連結中継器として、弊社製DJ-R20D、DJ-R100Dなどがペアで必要です。

使用チャンネル：L10～18、b12～29

●デュアルオペレーションモード（P.36）

メイン/サブの2つのチャンネルを交互に受信し、そのどちらとも通信することができるモードです。

使用チャンネル：L01～09、b01～11/L10～18、b12～29

ディスプレイ上に表示されている各通信モード番号はDJ-R20D/DJ-R100D/DJ-P23/DJ-P35Dに搭載のモードの番号と共通で、全機種間で同じように使用できます。

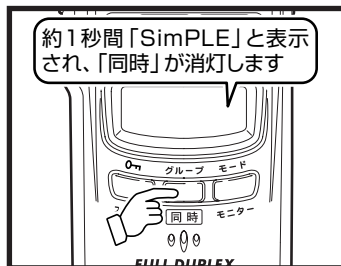
・・・・・・・ モードの切り替え方法 ・・・・・・・

工場出荷（初期）状態で電源を入れると、同時通話モードになります。ここではモードの切り替え方法について説明します。

■交互通話モードへの切り替え方法

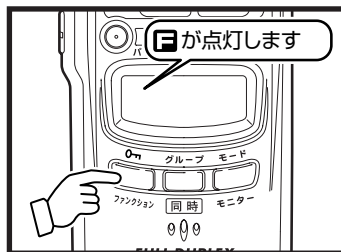
❶ ［同時］キーを押す

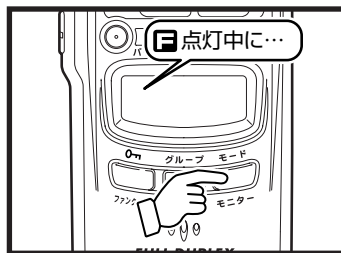
→約1秒間「SimPLE」と表示され、「同時」が消灯します。

［同時］キーを押すごとに、同時通話モード/交互通話モードが切り替わります。

2

■他の通信モードへの切り替え方法

❶ ［ファンクション］キーを押す

→Fが点灯します。

❷ F点灯中に［モード］キーを押す

→モード番号が点滅します。

❸ ダイヤルを回しモードを選択する

使用する通信モードに合わせます。
→ダイヤルを回すごとに約1秒間、以下のようにモードが文字で表示されます。
（・同時通話モード「FuLdUP」
・交互通話モード「SimPLE」）
・複信連結中継通信モード「Linq」
・デュアルオペレーションモード「dUAL」
→その後、モード番号とチャンネルが表示されます。

❹ ［PTT］キーを押して設定を完了する

各キーの無操作状態が約5秒続いても自動的に設定を完了します。

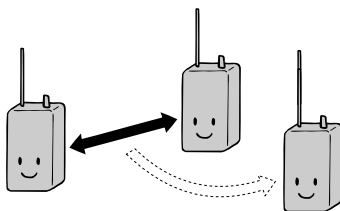
2

・・・・・・・・・各モードの操作方法・・・・・・・・・

モード別に操作方法を説明します。

同時通話（複信）モード

電話感覚で通話できるモードです。グループ全員に呼び出しを行い、一番早く応答した人と通話できます。初期状態ではチャンネル「L10」、グループ番号「01」、コンパンダー機能「♫」ON、「強制タイプ」に設定されています。

2

同時通話モードでは「強制タイプ」と「電話タイプ」の2つのタイプが選択できます。［ファンクション］キーを押し、F点灯中に［フック］キーを約2秒押すと切り替わります。「電話タイプ」を選択すると、「☎」が点灯します。

強制タイプ：［PTT］キーを押している間は送信を続けます。（通話が途切れにくい利点があります。）
電話タイプ：呼び出し／応答の手順で通話を行います。

注意
・同時通話時のグループトーク機能は設定により解除することはできません。
・同時通話モード、複信連結中継モードは原理上、他社無線機と通話することができません。

メモ
・DJ-R20D、DJ-R100Dと同時通話を行う場合にはグループトーク機能を設定し、グループ番号も合わせてください。
・相手の声が聞き取りにくい場合は、DJ-P25のセットモードでコンパンダー機能（P.48）をOFFにしてください。

■強制タイプ

❶ 電源を入れる

［パワー］キーを約1秒押します。(P.21)

2

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

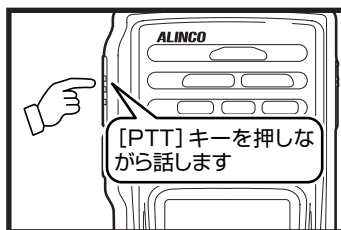
❸ グループ番号を合わせる

P.23を参照してグループ番号を合わせます。

❹ 音量を調整する

音量の調整はP.22を参照してください。

❺ 送信する

［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。信号を受けた相手機も［PTT］キーを押します。双方が［PTT］キーを押すと同時通話状態となります。

・ヘッドセットを使用している場合は、ヘッドセット側の［PTT］キーを押します。その場合には、本体［PTT］キーは無効となります。
・ヘッドセットを使用して途切れにくい通話を行うには・・・
セットモードのPTTホールド機能（P.58）をONにします。ヘッドセット側の［PTT］キーを押すと、ハンズフリーで途切れにくい通話が行えます。もう一度［PTT］キーを押すと、待ち受け状態になります。

■電話タイプ

❶ 電話タイプに切り替える

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［フック］キーを約2秒押します。
→が点灯し、同時通話の電話タイプに切り替わります。

メモ 強制タイプに戻す場合も同じ操作をします。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ グループ番号を合わせる

P.23を参照してグループ番号を合わせます。

❹ 呼び出す

本体の［PTT］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押します。
→10秒間呼び出し音が鳴り、相手からの返事を待ちます。

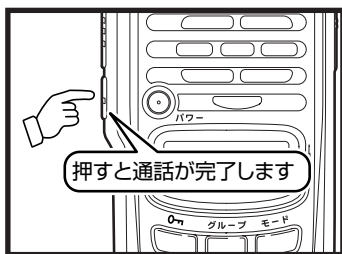
メモ 途中で呼び出しを止めたいときは本体［PTT］キーまたは［フック］キーを押します。
ヘッドセット使用中は、ヘッドセット側の［PTT］キーを押します。その場合には本体［PTT］キーおよび［フック］キーは無効となります。

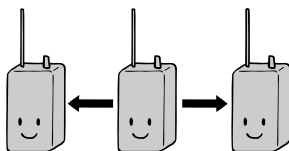
❺ 応答する

相手から呼び出されたときは10秒間呼び出し音が鳴ります。呼び出し音が鳴っている間に［フック］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押すと通話状態になります。

2

❻ 通話を終了する

通話を終了するには［フック］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押します。

メモ
オプションのヘッドセット（EME-12A/13A/15A/21A/23A）の［PTT］キーを押すごとに、呼び出し/応答/通話の終了、を繰り返します。
ただし、オプションのEME-19Aをご使用になる場合は、操作方法は次のようになります。
呼び出し　：黒いボタンをONにする
応答　　　：黒いボタンをONにする
通話の終了：黒いボタンをOFFにし、白いボタンを押す
通話していないときは、黒いボタンをOFFにし、次の呼び出しを待ちます。

交互通話（単信）モード

❶ ［同時］キーを押す

→約1秒間「SimPLE」と表示され、「同時」が消灯します。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

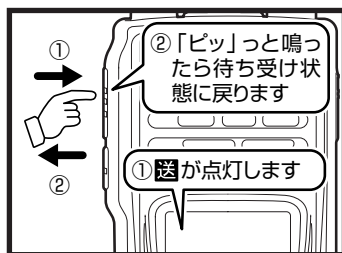
❸ 受信／送信する

●受信する

信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。
→ディスプレイの受が点灯します。

メモ
・相手の声が途切れる場合、［モニター］キーを押してください。聞きやすくなることがあります。［モニター］キーを押すと受が点灯します。もう一度押すと消灯します。(P.34)
・コンパンダー機能のない無線機と通話する際、声が聞き取りにくい場合にはDJ-P25のセットモードでコンパンダー機能（P.48）をOFFにしてください。

●送信する

①信号を受信していないことを確認してから、［PTT］キーを押します。［PTT］キーを押したままマイクに向かって話します。
→ディスプレイの送が点灯します。
②［PTT］キーを離します。
→「ピッ」と音が鳴った後、受信待ち受け状態になります。

メモ
マイクと口元は約5cm程度離してください。

■コールトーン機能

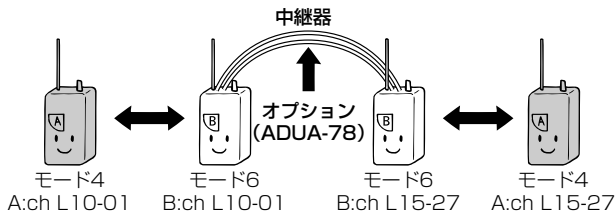
送信中に［ファンクション］キー、［グループ］キー、［モニター］キーのいずれかを押すと、呼び出し音が鳴り相手を呼び出すことができます。それぞれのボタンで呼び出し音は異なります。

メモ
交互通話と同時通話の強制タイプ時に使用できます。

■モニター機能

受信中に相手の声が途切れて聞きづらいときに、［モニター］キーを押してスケルチを一時的に解除することができます。もう一度押すとスケルチが有効になります。（スケルチとは受信時に信号がないときの「ザー」という雑音を消す機能です。P.51を参照してください。）

複信連結中継通信モード

直接の通信では電波の届かない場所にいる相手と、連結中継器を介して同時通話で通信するモードです。連結中継器として、弊社製DJ-R20D、DJ-R100Dなどがペアで必要です。

複信連結中継通信モードでは「強制タイプ」と「電話タイプ」の2つのタイプが選択できます。［ファンクション］キーを押し、F点灯中に［フック］キーを約2秒押すと切り替わります。「電話タイプ」を選択すると、「☎」が点灯します。

強制タイプ：［PTT］キーを押している間は送信を続けます。（通話が途切れにくい利点があります。）
電話タイプ：呼び出し／応答の手順で通話を行います。

❶ 通信モードを設定する

P.28を参照して「Linq」に合わせます。
→「**同時 中継 子機**」が点灯します。

メモ 同時通話（複信）モードの強制タイプでモード変更した場合は、強制タイプの複信連結中継通信モードになります。また電話タイプでモード変更した場合は、電話タイプの複信連結中継通信モードになります。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回して中継器とチャンネルを合わせます。

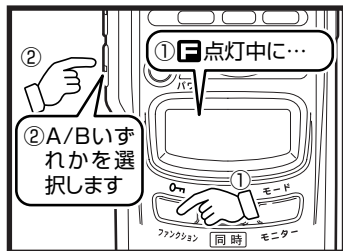
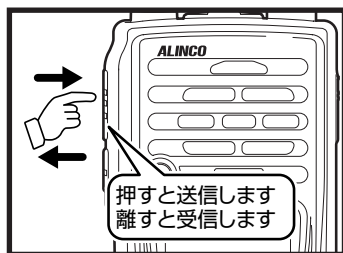
❸ グループ番号を合わせる

P.23を参照してグループ番号を合わせます。

❹ 周波数帯を設定する

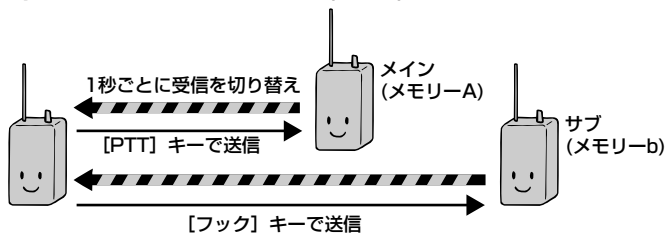
①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［フック］キーを押し、A/Bいずれかを選択します。

お使いになる中継器の設定をご確認ください。周波数帯は中継器と逆の設定をします。中継器がAなら子機をB、中継器がBなら子機をAとします。

❺ 送信する

［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。信号を受けた相手機も［PTT］キーを押します。双方が［PTT］キーを押すと同時通話状態になります。

・ループ機能（P.57）を利用して、直接会話に参加していない第三者が会話を聞くことができます。
・ヘッドセットを使用している場合は、ヘッドセット側の［PTT］キーを押します。通話を終了するときもヘッドセット側の［PTT］キーを押します。

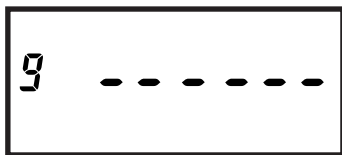
・原理上、相手機に音声が届くまでに頭切れを起こすことがあります。
・それぞれの無線機が至近距離にあると、まれに誤動作することがあります。子機－中継器間、子機－子機間は10m以上離してください。

デュアルオペレーションモード

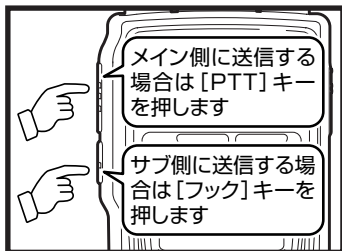
メイン/サブの2つのチャンネルを1秒ごとに交互に受信し、そのどちらとも通信することができるモードです。
メイン/サブに設定する内容は、あらかじめメモリー番号A、およびbに登録しておく必要があります。(P.39)

❶ メモリー番号A、およびbを登録する

P.39を参照して、メインに設定する内容をメモリー番号Aに、サブに設定する内容をメモリー番号bに登録します。

❷ 通信モードを設定する

P.28を参照して「dUAL」に合わせます。
→登録済みのメモリー番号Aをメインに、bをサブとして1秒ごとに交互に受信待ち受けを開始します。信号を受信すると交互待ち受けが止まります。

❸ 送信/受信する

●**送信する**

メイン側に送信する場合は［PTT］キーを、サブ側に送信する場合は［フック］キーを押します。
→送受信が終了し約5秒経過すると1秒ごとの交互待ち受けを再開します。

オプションのスピーカーマイクやイヤホンマイクで送信する場合は、外部PTTキー一度押しでメイン側、二度押しでサブ側を送信できます。

●受信する

→メイン側を受信すると「mAin」と表示され、「ピッ」音が鳴ります。また、サブ側を受信すると「SUb」と表示され、「ピピッ」音が鳴ります。

・交互通話モード、同時通話モードの強制タイプで使用できます。
・同時通話モードの電話タイプではデュアルオペレーションモードが動作しませんのでメモリー番号A、およびbに登録することができません。(P.31)

・・・・・ 通信モード別設定機能一覧 ・・・・・

各モードで使用できる機能の一覧です。モードによっては自動的に設定される機能もありますので、ご注意ください。それぞれの機能の設定方法は、該当するページを参照してください。

モード名		チャンネル表示	ディスプレイ表示	コンパンダー機能 (P.48)	グループトーク (P.41)	秘話機能 (P.49)	連続送信 (P.50)	ベル (P.54)	ループ (P.57)
同時通話（複信）モード	強制	L10~L18 b12~b29	同時 ♫	◎	●	○	△	○	○
	電話	L10~L18 b12~b29	(受話器) 同時 ♫	◎	●	○	△	●	○
交互通話（単信）モード		L01~L09 b01~b11	♫	◎	○	○	※	○	×
複信連結中継通信モード	強制	L10~L18 b12~b29	同時 ♫ 中継 子機	◎	●	○	△	○	○
	電話	L10~L18 b12~b29	(受話器) 同時 ♫ 中継 子機	◎	●	○	△	●	○
デュアルオペレーションモード		▲	▲	▲	▲	▲	△	×	▲

● :自動的に設定され、解除することはできません
◎ :自動的に設定され、設定により解除することができます
○ :設定することができます
△ :チャンネルがb12〜b29のときに設定できます
× :設定できません
▲ :メモリー登録したモードによって異なります
※ :設定できませんが、1mW送信は可能です

便利な機能

本機を使用する際に便利な機能を紹介します。

メモリーモード

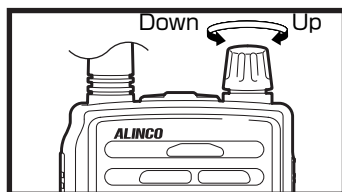
あらかじめ登録しておいたチャンネルを呼び出して運用するモードです。登録できる数は、0～9、A、bの12個です。
A、bに登録した内容はデュアルオペレーションモードでも使用します。

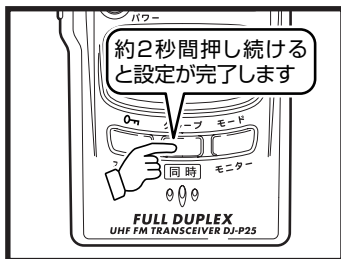
■メモリー登録

❶ 登録したい状態（モード、チャンネル、グループ番号など）に設定する

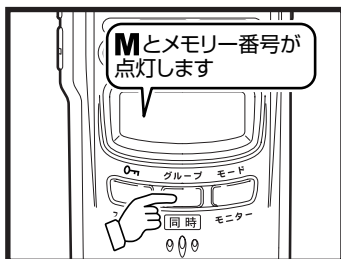
❷ ［ファンクション］キーを押す

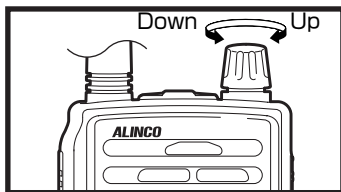
→**M**とメモリー番号が点滅します。

❸ ダイヤルを回し登録したいメモリー番号（0～9、A、b）を選択する

❹ ［同時］キーを約2秒押す

→「writE」と表示され、メモリーに設定した内容が登録されます。

■メモリー呼び出し

❶ ［同時］キーを約2秒押す

→**M**とメモリー番号が点灯し、メモリーモードに切り替わります。

❷ ダイヤルを回し使用するメモリー番号を選択する

通常の通信モードへ戻すには、再度［同時］キーを約2秒押します。

- メモリーモード時に登録された通信モードを確認するには、［同時］キーを押します。また、セットモードのメモリー表示機能（P.52）でメモリー番号と通信モードのどちらを優先して表示させるかを選択することができます。
- 一度登録されたメモリー内容を消去するには、完全リセット（P.45）操作を行ってください。
  メモリー内容の変更は上書きすることで可能です。

グループトーク

同じグループの人とだけ通信したいときはグループトーク機能を使用します。（同時通話モードではグループトーク機能を解除することはできません。）

❶ グループトークモードにする

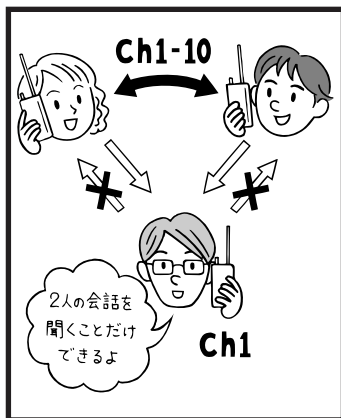
①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［グループ］キーを押します。
→グループ番号が点灯します。

❷ グループ番号を合わせる

ダイヤルを2回押し、グループ番号が点滅中にダイヤルを回します。グループ番号を合わせるにはP.23を参照してください。

❸ 送信する

［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。
→同じチャンネル、同じグループ番号の相手とだけ通話できます。
ただし、グループトーク機能のない同じチャンネルのトランシーバーには話し声が聞こえます。

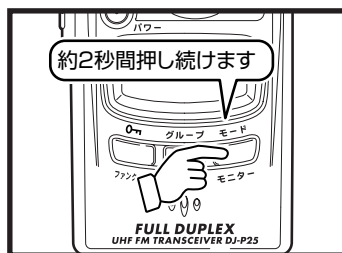
メモ　グループトークはトーンスケルチと呼ばれることもあります。この機能は秘話装置ではありません。

スキャン

自動的に受信チャンネルを切り替えて、信号が出ているところを探し出す機能です。スキャン停止後、信号がなくなれば次のチャンネルへ移ります。

注意 本機能は交互通話モード、同時通話モードの強制、複信連結中継通信モードの強制で使用できます。

3

❶ スキャンを開始する

［モニター］キーを約2秒押します。
→スキャンが始まります。信号を受信したチャンネルで止まります。信号がなくなると、またスキャンが始まります。

❷ スキャンを中止する

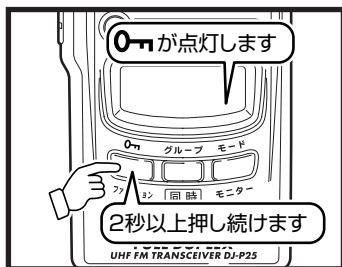
［モニター］キーを約2秒押すか、［PTT］キーを押します。

・・・・・・・ キーロック（2タイプ）・・・・・・・

キーロックしておくと、誤操作などによる設定変更を防止できます。

・キーロック中でも、送信、モニター操作、音量調整は操作可能です。
・セットモードのキーロック設定（P.52）でキーの押し時間を変更することができます。

■簡易キーロック

●キーロックする

［ ］キーを約2秒押します。
→ が点灯します。

●キーロックを解除する

キーロック中に［ ］キーを約2秒押します。
→ が消灯しキーロックが解除されます。

■キーロック

●キーロックする

［モニター］キーと［ダイヤル］を同時に約2秒押します。
→ が点灯します。

●キーロックを解除する

キーロック中に［モニター］キーと［ダイヤル］を同時に約2秒押します。

キーロック解除は、キーロックをかけた操作と同じ操作を行わないと解除できません。

3

バッテリー警告機能

電池の残量が少なくなると が点灯します。
電池の交換時期が近づいています。新しい電池と交換してください。

メモ
・電源OFFの状態で充電すると「CHArGE」と表示され、 が点滅します。
・オプションのニッケル水素充電池（EBP-57N）をご使用の場合、セットモードでNi-MH電池充電機能をONに設定してください。充電機能をONにすることにより、本機がニッケル水素充電池を使用していると判断し、バッテリー警告マークを交換時期に正しく表示します。

注意　本機能には誤差があるため、目安程度とお考えください。

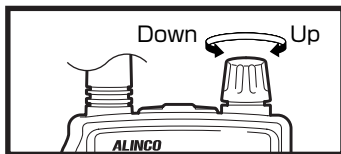
緊急通報機能

本機を簡易的な緊急通報装置として使用する機能です。普段はトランシーバーとして使用し、万一の際には相手機にアラーム音で知らせます。交互通話モードのみで有効です。

❶ 交互通話モードに設定する

P.27を参照して、本機を交互通話モードに設定します。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ ダイヤルを3秒以上押す

→緊急通報を10秒間送信します。相手機は緊急信号を受信し、アラーム音が鳴ります。

リセット

リセットには次の2つの方法があります。

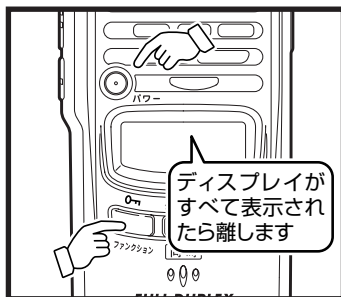
簡易リセット：設定状態などがわからなくなったときに初期化します。通常はこの簡易リセットを行ってください。

完全リセット：工場出荷状態に戻ります。メモリーの内容なども削除され、消えたデータは復旧できません。

■簡易リセット

［ファンクション］キーを押しながら電源を入れます。

→ディスプレイ全点灯中に［ファンクション］キーを離します。

簡易リセットでは登録済みメモリー内容、一部の設定済み内容は保存されます。(P.46)

■完全リセット

［ファンクション］キーとダイヤルを押しながら電源を入れます。

→ディスプレイ全点灯中に［ファンクション］キーとダイヤルを離します。

完全リセットでは登録済みメモリー内容は消去され、すべての設定済み内容も工場出荷時の設定に戻ります。

3

セットモード

各種機能をより使いやすくするために、本機をカスタマイズする機能です。

セットモード一覧

各種機能をより使いやすくするために、DJ-P25をカスタマイズすることができます。

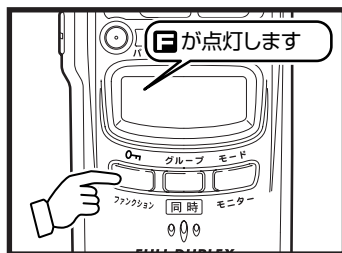
	カスタマイズ項目	参照ページ	初期値	簡易リセット時保存
1	コンパンダー機能	P.48	ON	
2	秘話機能	P.49	OFF	
3	CH/VOLリバース機能	P.50	CH優先	○
4	連続送信(ローパワー)設定	P.50	HI	○
5	ディスプレイ変更機能	P.51	MODE	○
6	スケルチレベル設定	P.51	3	○
7	キーロック設定	P.52	2秒	○
8	メモリー表示機能	P.52	NUMBER	○
9	ビープ音量設定	P.53	3	
10	操作音機能	P.53	ON	
11	ベル機能	P.54	OFF	
12	エンドピー機能	P.54	ON	
13	音色変更機能	P.55	1	
14	バッテリーセーブ機能	P.55	ON	
15	オートパワーオフ機能	P.56	OFF	
16	ランプオン/オフ設定機能	P.56	5秒	
17	ループ機能	P.57	OFF	
18	Ni-MH電池充電機能	P.57	OFF	
19	電池(電圧)参照機能	P.58	—	
20	PTTホールド機能	P.58	OFF	
21	PTTオン/オフ設定機能	P.59	ON	
22	LCDオン/オフ設定機能	P.59	ON	
23	外部音量変更機能	P.60	L	

P.48からP.60にセットモードの各項目の設定方法を記載しています。なお、掲載しているディスプレイ表示は、工場出荷(初期)状態のものです。

・・・・・・・・・・ 各項目の設定方法 ・・・・・・・・・・

セットモードで設定する各カスタマイズ項目の基本的な設定方法は次のとおりです。各項目の詳細は、該当するページを参照してください。

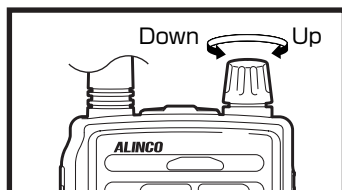
❶ セットモードにする

［ファンクション］キーを押します。
→Ｆが点灯します。

❷ Ｆ点灯中にダイヤルを押す

→セットモードの項目が表示されます。ダイヤルを押すごとに項目が切り替わります。［フック］キーを押すと前項目に戻ります。

❸ ダイヤルを回して設定値を変更する

または、ダイヤルを回してON/OFFを選択します。

4

❹［PTT］キーを押して設定を完了する

コンパンダー機能

コンパンダー機能を設定すると、音声通話の明瞭度を上げることができます。初期状態では「ON」に設定されています。

❶コンパンダーモードにする

①セットモードにして（P.47）、「ComPnd」を選択します。
②ダイヤルを回しON/OFFを設定します。
→コンパンダー機能設定時には、「♬」が点灯します。

コンパンダー機能のない無線機とも通話はできますが、音声が聞き取りにくいことがあります。その場合にはコンパンダー機能をOFFに設定してください。

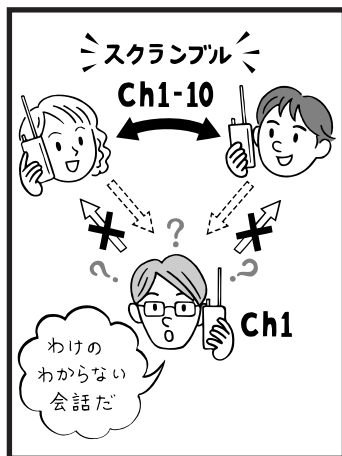
4

秘話機能（スクランブルトーク）

スクランブルトークにすると、他の人には会話の内容が理解できなくなります。秘話機能を搭載した弊社製トランシーバー間で通話することができます。

❶ 秘話モードにする

①セットモードにして（P.47）、「ScrbLE」を選択します。
②ダイヤルを回しON／OFFを設定します。
→秘話機能設定時には、「秘話」が点灯します。
同じチャンネルで秘話機能を設定している相手とだけ通話できます。
秘話機能のないトランシーバーには話し声は聞こえますが内容はわかりません。

4

CH/VOLリバース機能

ダイヤルを回したときに、チャンネル変更/音量調整のどちらを優先的に操作できるかを選択できます。初期状態ではチャンネル優先に設定されています。

❶ CH/VOLリバースの設定をする

セットモードにして（P.47）「CH-voL」を選択します。

CH-voL

❷ ダイヤルを回して「CH-voL」または「voL-CH」を選択する

→「voL-CH」を選択すると音量調整が優先されます。

4

連続送信（ローパワー）設定

同時通話時のビジネスチャンネル（b12～b29）設定時、送信出力を10mWから1mWに抑えることにより、3分間の通話制限が解除され連続送信が可能になります。初期状態では送信出力は10mW（「Hi」）に設定されています。

❶ 連続送信（ローパワー）の設定をする

セットモードにして（P.47）「Pow-Hi」を選択します。

Pow-Hi

❷ ダイヤルを回しローパワー（「Po.w-Lo」）に設定する

→ローパワーに設定すると、チャンネル表示部に「.（ドット）」が点灯します。

交互通話（単信）モードでは、ローパワーに設定する（1mWにする）ことができますが、連続送信はできません。

ディスプレイ変更機能

ディスプレイのモード番号表示部を、S/RFメーター、または送信制限時間表示として使用することができます。また各チャンネルを周波数表示させることができます。なお、連続送信可能時間は、180秒からカウントダウン表示します。初期状態ではモード表示に設定されています。

❶ ディスプレイ変更の設定をする

セットモードにして（P.47）「modE」を選択します。

❷ ダイヤルを回しディスプレイ方法を選択する

以下からディスプレイ表示方法を選択します。

modE　　：モード番号表示
SmEtEr　：S/RFメーター表示
Cntdn　　：カウントダウン表示
FrEq　　：周波数表示

スケルチレベル設定

スケルチとは受信時に信号がないときの「ザー」という雑音を消す機能です。初期状態では「3」に設定されています。設定値が大きいほど、強い信号でスケルチが開くようになります。

❶ スケルチレベルの設定をする

セットモードにして（P.47）「SqL 3」を選択します。

❷ ダイヤルを回しレベルを調整する

レベルは0～5の間で調整できます。

キーロック設定

キーロックするときのキーを押し続ける時間を設定できます。時間を長くすることにより、誤操作による不意なキーロック解除を防止できます。初期状態では「2」秒に設定されています。

❶ キーロックの設定をする

セットモードにして（P.47）「Loc 2」を選択します。

Loc 2

❷ ダイヤルを回し時間を選択する

1～3秒の間で選択できます。

4

メモリー表示機能

メモリーチャンネル運用時の表示方法を選択する機能です。初期状態ではメモリーチャンネル番号表示に設定されています。

❶ メモリー表示の設定をする

セットモードにして（P.47）「numbEr」を選択します。

numbEr

❷ ダイヤルを回し表示方法を選択する

以下から表示方法を選択します。

numbEr　：メモリーチャンネル番号を表示します
modE　：通話モード番号を表示します
no-modE　：メモリーチャンネル番号と通話モード番号を同時に表示します

ビープ音量設定

本機から鳴るビープ音（操作音）の音量を設定します。初期状態では「3」に設定されています。

❶ ビープ音量の設定をする

セットモードにして (P.47) 「bEEP 3」を選択します。

❷ ダイヤルを回しビープ音量を設定する

ビープ音量は0～5の間で選択できます。「0」に設定するとすべてのビープ音（キー操作音、各種アラーム音、ベル音など）が鳴らなくなります。

4

操作音機能

キー操作音のON/OFFを設定します。初期状態ではONに設定されています。

❶ 操作音の設定をする

セットモードにして (P.47) 「on Sound」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

ベル機能

呼び出されたことを表示とベル音でお知らせします。初期状態ではOFFに設定されています。

❶ ベルの設定をする

セットモードにして(P.47)「oFF bELL」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

→ベル機能設定時には、が点灯します。

メモ 約10秒間通話が途切れたあとに受信したとき、ベルが動作します。

エンドピー機能

[PTT] キーを離したときの「ピッ」音のON/OFFを設定します。初期状態ではONに設定されています。

❶ エンドピーの設定をする

セットモードにして(P.47)「on EndP」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

音色変更機能

同時通話モード、複信連結中継通信モードでの呼び出し音を選択できます。初期状態では「1」に設定されています。設定中に［モニター］キーを押すと、試聴して音色を確認することができます。

注意 ベル機能の音色も変更されます。

❶ 音色変更の設定にする

セットモードにして(P.47)「1 mELody」を選択します。

❷ ダイヤルを回し音色を3タイプの中から選択する

音色のタイプは、1、2、3の中から選択します。

4

バッテリーセーブ機能

待ち受け状態が5秒以上続くと、内部電源を定期的にON/OFFさせて電池の消費を抑える機能です。初期状態ではONに設定されています。

❶ バッテリーセーブの設定をする

on bS

セットモードにして（P.47）「on bS」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

→バッテリーセーブ機能をOFFに設定すると、チャンネル表示部に「.（ドット)」が点灯します。

オートパワーオフ機能

電源スイッチの切り忘れを防ぐ機能です。無操作状態が設定時間続くと、アラーム音が鳴り自動的に電源が切れます。初期状態ではOFFに設定されています。

❶ オートパワーオフの設定をする

oFF APO

セットモードにして（P.47）「oFF APO」を選択します。

❷ ダイヤルを回し時間を選択する

OFF、30分、60分、90分、120分から選択します。

ランプオン/オフ設定機能

ディスプレイ照明を点灯させる機能です。初期状態では「5」秒に設定されており、キー操作をすると5秒間照明が点灯するように設定されています。

ディスプレイ照明を常時点灯させると電池の消耗が早くなります。

❶ ランプの設定をする

セットモードにして（P.47）「5 LAmP」を選択します。

❷ ダイヤルを回し点灯時間を設定する

OFF、5秒、ON（常時点灯）から選択します。

ループ機能

同時通話モード、複信連結中継通信モードで第三者が会話を聞くことができる機能です。初期状態ではOFFに設定されています。

複信連結中継通信モードで使用する場合は、片方の無線機のみに設定してください。両方の無線機に設定すると原理上、ハウリングが発生します。

❶ ループ機能の設定をする

セットモードにして（P.47）「oFF AFLooP」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

Ni-MH電池充電機能

オプションのニッケル水素充電池（EBP-57N）にトリクル充電する機能です。初期状態ではOFFに設定されています。

- オプションのニッケル水素充電池（EBP-57N）をご使用の場合、セットモードでNi-MH電池充電機能をONに設定してください。充電機能をONにすることにより、本機がニッケル水素充電池を使用していると判断し、バッテリー警告マークを交換時期に正しく表示します。
- 本機能は微小電流による充電であるため、補充電程度とお考えください。充電時間の目安は次のとおりです。
  EBP-57N（1800mAh）：約15時間

単三形乾電池（アルカリ/オキシライドなど）装着時には絶対に充電しないでください。液漏れを起こし、事故や故障の原因となります。また、市販の単三形充電池は機構的、電気的に合わないものがあるため、使用しないでください。

❶ Ni-MH電池充電の設定をする

セットモードにして（P.47）「oFF CHArGE」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

電池（電圧）参照機能

電池のタイプと電圧を参照する機能です。「t3」は単三形電池、「Li」はリチウムイオンバッテリーパックを示します。

メモ 表示には誤差を含みますので、目安程度とお考えください。テスターとしては使用できません。

❶ 電池（電圧）を参照する

セットモードにして（P.47）電池（電圧）表示を選択します。
→電池のタイプと電圧が表示されます。
外部電源使用時は、「FULL」と表示されます。
イラスト中の電圧表示は一例です。

PTTホールド機能

［PTT］キーを一度押すと送信を継続する機能です。もう一度押すと受信状態になります。この設定を行うことで、［PTT］キーを押し続ける必要がなくなります。初期状態ではOFFに設定されています。

❶ PTTホールドの設定をする

セットモードにして（P.47）「oFF PttHLd」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

メモ PTTホールド機能ONで送信した場合、3分送信のタイムアウト（P.24）後、約2秒経過で自動的に送信を再開します。

PTTオン/オフ設定機能

本機を受信専用で使用する場合に、送信を禁止する機能です。[PTT]キーを押しても送信できません。初期状態ではONに設定されています。

❶ PTTオフの設定をする

セットモードにして（P.47）「on Ptt」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

OFFに設定すると送信が禁止されます。

LCDオン/オフ設定機能

送受信中にディスプレイ表示を消灯させる機能です。送受信音に雑音が混じる場合は、本機能により軽減することがあります。初期状態ではONに設定されており、送受信中でもディスプレイ表示は消えません。

❶ LCDオン/オフの設定をする

セットモードにして（P.47）「on Lcd」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

4

外部音量変更機能

外部スピーカーを使用するとき、音が小さい場合には音量を全体的に上げることができます。

❶ 外部音量の設定をする

セットモードにして (P.47)「EvoL-L」を選択します。

EvoL-L

❷ ダイヤルを回し「EvoL-H」に設定する

→「EvoL-H」を選択すると、全体的に音量が上がります。

イヤホンを使用した状態で外部音量の変更はしないでください。大きな音で耳を痛める可能性があります。

付　録

本機の補足事項を記載しています。

・・・・ 各チャンネルの送受信周波数 ・・・・

■レジャーチャンネル

L01	422.2000MHz
L02	422.2125MHz
L03	422.2250MHz
L04	422.2375MHz
L05	422.2500MHz
L06	422.2625MHz
L07	422.2750MHz
L08	422.2875MHz
L09	422.3000MHz

	B	A
L10	421.8125MHz	440.2625MHz
L11	421.8250MHz	440.2750MHz
L12	421.8375MHz	440.2875MHz
L13	421.8500MHz	440.3000MHz
L14	421.8625MHz	440.3125MHz
L15	421.8750MHz	440.3250MHz
L16	421.8875MHz	440.3375MHz
L17	421.9000MHz	440.3500MHz
L18	421.9125MHz	440.3625MHz

複信連結中継通信モードでの周波数帯について…
A選択時：440MHz側を送信します。
B選択時：421MHz側を送信します。

■ビジネスチャンネル

b01	422.0500MHz
b02	422.0625MHz
b03	422.0750MHz
b04	422.0875MHz
b05	422.1000MHz
b06	422.1125MHz
b07	422.1250MHz
b08	422.1375MHz
b09	422.1500MHz
b10	422.1625MHz
b11	422.1750MHz

	B	A
b12	421.5750MHz	440.0250MHz
b13	421.5875MHz	440.0375MHz
b14	421.6000MHz	440.0500MHz
b15	421.6125MHz	440.0625MHz
b16	421.6250MHz	440.0750MHz
b17	421.6375MHz	440.0875MHz
b18	421.6500MHz	440.1000MHz
b19	421.6625MHz	440.1125MHz
b20	421.6750MHz	440.1250MHz
b21	421.6875MHz	440.1375MHz
b22	421.7000MHz	440.1500MHz
b23	421.7125MHz	440.1625MHz
b24	421.7250MHz	440.1750MHz
b25	421.7375MHz	440.1875MHz
b26	421.7500MHz	440.2000MHz
b27	421.7625MHz	440.2125MHz
b28	421.7750MHz	440.2250MHz
b29	421.7875MHz	440.2375MHz

・・・トーン周波数一覧（グループ番号）・・・

番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数
01	67.0Hz	16	114.8Hz	31	192.8Hz	46	196.6Hz
02	71.9Hz	17	118.8Hz	32	203.5Hz	47	199.5Hz
03	74.4Hz	18	123.0Hz	33	210.7Hz	48	206.5Hz
04	77.0Hz	19	127.3Hz	34	218.1Hz	49	229.1Hz
05	79.7Hz	20	131.8Hz	35	225.7Hz	50	254.1Hz
06	82.5Hz	21	136.5Hz	36	233.6Hz		
07	85.4Hz	22	141.3Hz	37	241.8Hz		
08	88.5Hz	23	146.2Hz	38	250.3Hz		
09	91.5Hz	24	151.4Hz	39	69.3Hz		
10	94.8Hz	25	156.7Hz	40	159.8Hz		
11	97.4Hz	26	162.2Hz	41	165.5Hz		
12	100.0Hz	27	167.9Hz	42	171.3Hz		
13	103.5Hz	28	173.8Hz	43	177.3Hz		
14	107.2Hz	29	179.9Hz	44	183.5Hz		
15	110.9Hz	30	186.2Hz	45	189.9Hz		

・・・・・・・・・・・オプション一覧・・・・・・・・・・・

EBP-57N	ニッケル水素充電池
EBP-60	リチウムイオンバッテリーパック
EDC-131A	充電スタンド/ACアダプターセット
EDC-131	充電スタンド単体
EDC-122	ACアダプター単体
EDH-33	シガーDC/DCコンバーター（12V／24V車対応）
EMS-59	スピーカーマイク
EME-12A	VOX付きヘッドセット（ヘッドホンタイプ）
EME-13A	VOX付きヘッドセット（インナータイプ）
EME-15A	VOX付きタイピンマイク
EME-19A	ヘルメット用ヘッドセット
EME-21A	イヤホンマイク（業務仕様）
EME-23A	イヤホンマイク
EME-29A	イヤホンマイク　イヤーフック付（業務仕様）
EME-6	イヤホン（ストレートコード）
EME-26	イヤホン（カールコード）
ESC-40	ソフトケース

EMS-59（スピーカーマイク）は、PTTホールド機能を使用できません。

・・・・・・ 故障とお考えになる前に ・・・・・・

本機が故障かなと思ったら、まずこちらをお読みください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電池の入れ方が間違っている。（P.13）	電池を正しく入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。充電池を充電してください。
ディスプレイ表示が消える。	LCDオン/オフ設定機能がONになっている。（P.59）	LCDオン/オフ設定機能をOFFにしてください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。充電池を充電してください。
音が出ない。受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定してください。
	相手とチャンネルが違う。（P.22）	同じチャンネルに合わせてください。
	相手と距離が離れ過ぎている。（P.10）	通信距離を目安に通信してください。
	グループ番号が違う。（P.23）	グループ番号を合わせてください。
	［PTT］キーが押されている。	［PTT］キーを離してください。
「ザー」という雑音が出る。	スケルチレベルが低すぎる。（P.51）	適切なスケルチレベルに設定してください。
送信できない。	信号を受信している。	信号がなくなってから送信するか、チャンネルを変更してください。
	通信制限時間を超過している。（P.24）	［PTT］キーを離し2秒たってから送信してください。
	PTTオン/オフ設定機能がOFFになっている。（P.59）	セットモードでPTTオン/オフ設定機能をONにしてください。
電池の消耗が早い。	バッテリーセーブ機能がOFFになっている。（P.55）	セットモードでバッテリーセーブ機能をONにしてください。
	ランプオン/オフ設定機能がONになっている。（P.56）	セットモードのランプオン/オフ設定機能でランプをOFFにするか、5秒に設定してください。
Ni-MH電池使用時、電池マークの点灯が早い。	Ni-MH電池充電機能がOFFになっている。（P.57）	セットモードでNi-MH電池充電機能をONにしてください。
キー操作できない。チャンネルが変わらない。	キーロックされている。（P.43）	キーロックを解除してください。

処置を施しても異常が続くときはリセット（初期化）してください。症状が回復する場合があります。

電池が消耗していると、まれに誤動作することがあります。新しい電池に交換してください。

定格DJ-P25

項目		
送受信周波数	レジャーチャンネル	421.8125～421.9125MHz 422.2000～422.3000MHz 440.2625～440.3625MHz（12.5kHzステップ）
	ビジネスチャンネル	421.5750～421.7875MHz 422.0500～422.1750MHz 440.0250～440.2375MHz（12.5kHzステップ）
電波形式	F3E（FM）	
送信出力	10mW、1mW	
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン	
受信感度	-14dBμ以下（12dB SINAD）	
中間周波数	1st IF 21.7MHz/2nd IF 450kHz	
音声出力	内部スピーカー200mW以上/外部出力100mW以上	
消費電流	同時通話時 約80mA	
	送信時 約75mA（10mW）、約65mA（1mW）	
	受信定格出力時（50mW） 内部 約200mA/外部 約130mA	
	受信待ち受け時 約55mA	
	バッテリーセーブ時（平均） 約20mA	
通信方式	単信方式、複信方式	
定格電圧	DC2.4V～DC3.7V	
外部電源端子	DC5.0V～DC6.0V　EIAJ規格:区分2	
動作温度範囲	-10℃～+50℃	
寸　法	57（W）×98（H）×27.9（D）mm（突起部除く）	
重　量	124g（電池除く）	